

社長メッセージ

カーボンニュートラルをはじめとする産業・社会の大きな変化においてさらに高まる高信頼性特殊鋼へのニーズに応えるとともに、経営理念「信頼の経営」の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

わたくしたち山陽特殊製鋼グループは、1933年の創業以来、再生資源である鉄スクラップを原料とした特殊鋼製造で資源循環型社会の一翼を担うとともに、信頼性の高い特殊鋼製品を社会の様々な分野に提供することで産業・経済の発展に貢献してまいりました。また、特殊鋼マーケットのグローバル化に先駆けて対応し、現在では、日本、欧州、インドに特殊鋼の一貫製造拠点を構え、グローバルな特殊鋼需要を捕捉できる体制を整えるとともに、中国や北米といった自動車の成長市場に素形材事業拠点を設置し、需要業界の地産地消化に対応するサプライチェーンを構築しています。

カーボンニュートラルをはじめとする大きな社会・産業の変化においても、信頼性の高い当社の特殊鋼製品は社会の発展を支える重要な素材として、世界中でそのニーズはさらに高まっていきます。こうしたなか、私たちは、事業基盤の強化と時代の先を見据えた技術の革新に挑み、需要家のニーズに応えることで「高信頼性鋼の山陽」ブランドの信頼をさらに積み上げていくとともに、“社会からの信頼”、“お客様からの信頼”、“人と人との信頼”の確立を目指す経営理念「信頼の経営」の実践を通じて、経済的価値と社会的価値の創出を図り、持続可能な社会の実現に貢献し続けてまいります。

代表取締役社長 宮本 勝弘



社長メッセージ

2021年度の振り返りと足元 経営環境

2021年度の振り返り

2021年度の経営成績は、世界経済が新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況から持ち直す動きの中、鉄スクラップをはじめとする原燃料価格が大幅に上昇したものの、自動車、産業機械、建設機械などの主要需要業界の回復に伴う売上数量の増加や、鉄スクラップサーチャージ制度適用等による販売価格の上昇、欧州子会社Ovakoをはじめとするグループ会社の収益改善などにより、連結売上高は3,633億円、連結経常利益は217億円と、赤字だった2020年度から著しく改善いたしました。(図1)

また、2021年度は、5カ年の経営計画「25年中期」の初年度として、需要構造の変化や国際競争の激化を見据えて体質を強化することで収益拡大を図っていく方針のもと、海外事業の収益力強化や競合他社にはない強みである日本製鉄・Ovakoとの3社連携シナジーの早期発揮に向けた取り組みを進めてまいりました。海外事業ではOvakoの収益力強化が進展して連結業績に大きく貢献したほか、3社連携では、6年目となる2024年度に3社間で100億円程度のシナジー効果を発揮する計画のもと、3年目となった2021年度には計画を上回る進捗で成果が得られております。

足元の経営環境と対応方針

近年、特殊鋼業界では、競合他社の能力増強や品質・技術力の向上等により国際競争の激しさが一層増しております。また、足元では、ウクライナ情勢の影響等によるエネルギー価格の大幅な上昇や、円安の進行によって、未曾有のコストアップ影響が現出しております。(図2)

特殊鋼需要に関しても、半導体不足等による自動車の減産やウクライナ情勢の長期化、世界的なインフレ等による経済の減速が懸念され、今後の動向に引き続き注視が必要です。

こうしたなか、当社グループといたしましては、「適正マージンの確保」を基本方針として、販売価格の改定やサーチャージの適用拡大等を進めるとともに、安定的な操業に注力し、原燃料価格上昇に伴うコストアップに必要な対策を講じてまいります。こうした方針のもと、2022年度は通期の経常利益200億円^(注)を目指し、引き続き安定的な収益を確保できる盤石な企業体質の確立によるグローバルな特殊鋼マーケットでの企業価値の更なる向上を図ってまいります。

(注) 2022年10月31日時点の公表業績予想

図1 連結業績の推移

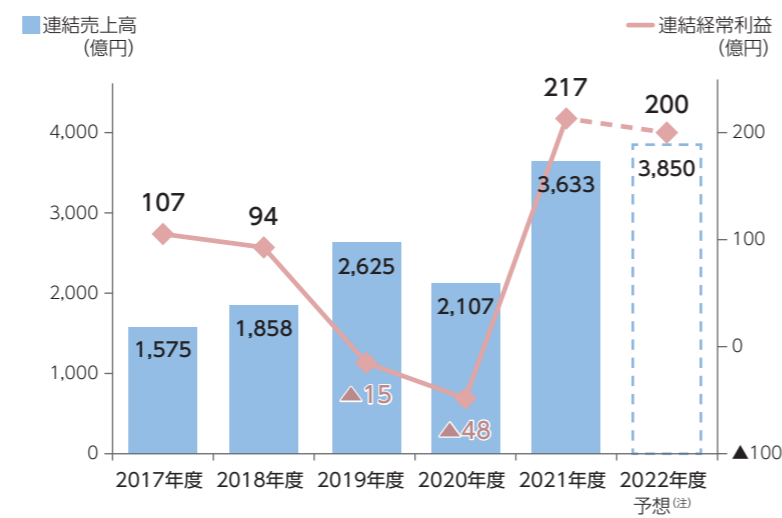
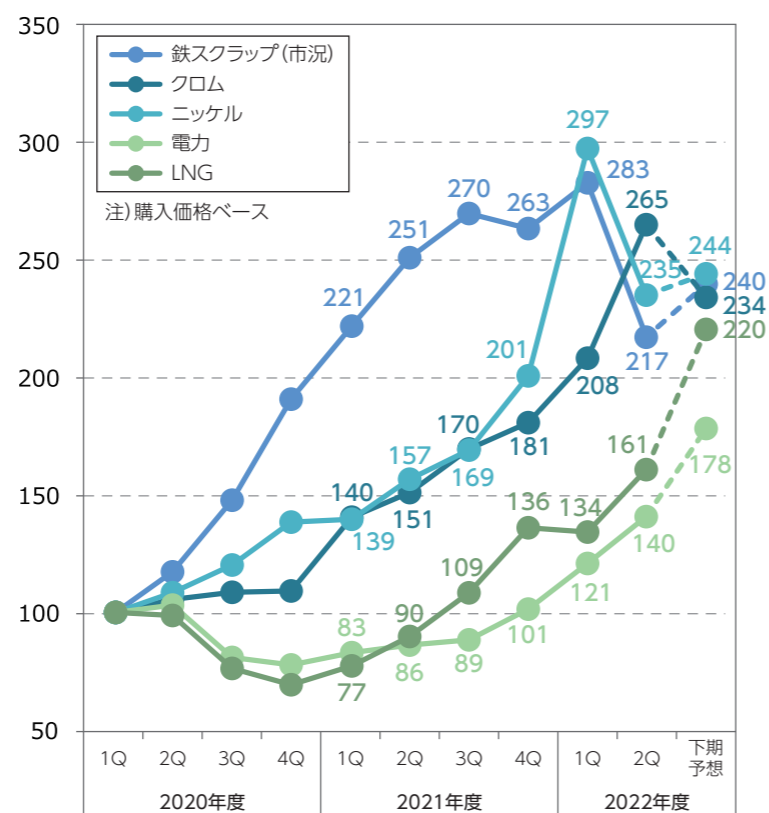


図2 原燃料価格の推移 (2020年度第1四半期を100とした指数表示)



持続可能な社会の実現に向けたESGの取り組み

2050年カーボンニュートラルに向けて

企業には、持続可能な社会の実現に向けた貢献が求められます。特に、気候変動問題は人類の存亡に影響を与える重要な課題であり、当社は2050年のカーボンニュートラルを目指す方針を掲げ、昨年7月にその実現に向けたロードマップを公表いたしました。このロードマップに基づき、2030年度に自社で排出するCO₂を2013年度比50%以上削減することに加え、需要家のCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトや、海外グループ会社に省エネ・生産性向上技術を展開するエコソリューションを推進し、2013年度排出量の約2割相当の削減貢献を目指してまいります。

当社グループの欧州子会社Ovakoは脱炭素に向けて世界的にも最も先進的な取り組みを進めており、2022年1月にはカーボンオフセットプログラムを活用したカーボンニュートラル体制に移行しました。Ovakoでは、これに伴う気候サーチャージを導入し、グリーンスチールの販売を始めています。欧州では需要業界においても低炭素鋼材への関心が高く、いち早くカーボンニュートラルを実現したことで、欧州特殊鋼マーケットにおけるOvakoの優位性はさらに高まったと認識しております。

CO₂排出削減やエネルギー効率向上の面でも、当社グループが得意とする信頼性の高い特殊鋼製品へのニーズは一層高まるものと考えております。当社グループの強みが発揮できる大いなる機会と認識し、社会全体のカーボンニュートラル実現に貢献するイノベーション創出や需要家の環境課題に貢献する新たな鋼材ニーズへの対応等を積極的に推進してまいります。

人と技術の成長を目指して

ものづくり企業である当社グループにとって、安全・防災と健康は事業活動の大前提であり、全てに優先するものと考えております。こうした認識のもと、安全に関しては「トップダウンとボトムアップの融合」と「ハード対策とソフト対策の両輪」によって作業リスクの低減と安全に強い職場づくりを推進し、防災に関しては、社員の防災意識を高める取り組みや大規模地震防災訓練を実施すること等により事故の未然防止や災害時の被害の拡大防止に取り組んでおります。また、健康に関しましては、2021年8月に「山陽特殊製鋼健康経営宣言」を策定し、代表取締役社長を最高健康責任者とする健康経営推進体制を整備し、社員一人ひとりが安全で健康的に働きがいのある仕事に日々取り組むことのできる環境づくりを進めております。

多様性(ダイバーシティ)の観点からは、シニア世代の活躍推進を目的として2021年4月から当社の定年年齢を65歳に引き上げたほか、かねてから女性社員の活躍を促進するための施策を進めており、2022年6月には女性の執行役員も

就任しております。また、事業活動のグローバル化に対応するため、グローバル人材育成の取り組みを展開しており、これまでは新型コロナウイルス感染拡大の影響で外国との往来が困難でしたが、今後は国をまたがる人材の交流も加速させてまいります。

これらに加え、当社グループが持続的に成長していくためには、技術の成長が不可欠です。グローバルな特殊鋼マーケットでの企業価値の向上に向け、研究開発・品質競争力の強化による技術先進性の更なる拡大を推進してまいります。

コーポレート・ガバナンスの充実

当社は、経営の意思決定の迅速化を図り、取締役会における経営の基本方針等の議論をより充実させるとともに、取締役会による業務執行への監督機能を強化すること等を目的として、2022年6月に監査等委員会設置会社に移行いたしました。引き続き、株主や取引先をはじめとするステークホルダーの皆様からの負託と信頼に応え、当社グループの健全で持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るために、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでまいります。

これらESGに関する取り組みをご紹介する本レポートを通じて、当社グループの活動を一層ご理解いただき、さらなるご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

